

長岡高専○学生員 鈴木利尚

長岡高専 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

高齢化社会の急激な進展により、様々な問題が顕在化してきている。特に新潟県を始めとする積雪寒冷地域においては、過疎地域の拡大、高齢化率の上昇、各種施設整備の立ち後れ、冬季間の除排雪問題等、今後の地域経営において早急に対策を講じなければならない問題が山積みしている。本研究は、高齢者の組織である「老人クラブ」の活動の実態を通して、今後の地域計画の中で高齢者の果たすべき役割と課題について検討を行うものである。調査の対象は、新潟県全域とし、以下のような調査を行った。

(1)老人クラブに対する行政支援の現状との活動状況

(2)高齢者と地域との係わりについて

(3)高齢者用の施設整備の利用状況調査

なお、(1)(2)に関しては、平成8年9月に行い、約380通を回収し（老人クラブの代表者を対象、郵送配布・回収、600通配布）、(3)は県内の全ての「老人福祉センター」と「老人憩いの家」を対象としたものであり、54の施設から回答を得た（郵送配布・回収、133カ所）。

2. 老人クラブの活動の現状と課題

高齢者を取り巻く問題は多岐に渡っているが、従来は福祉問題だけが大きく取り上げられ、高齢者を中心とした地域の問題についてはあまり議論されていない。すなわち、今後高齢者の増加に伴い、高齢者の持つ知識や技術等を街づくりの中に反映できるような仕組み造りが求められるものと思われる。本研究では、高齢者の組織である「老人クラブ」の活動を通して、地域活性化の可能性について検討を行う。

図-1は、「行政による高齢者への支援や助成の現状」と「老人クラブの現在の活動状況」の各項目についての重要度と満足度を図示したものである。なお、図中の番号の内容は表-1を参照のこと。ここで満足度とは、各項目に対する5段階評価（1. 不満、2. やや不満、3. 普通、4. やや満足、5. 満足）に対して、やや満足と満足の回答から不満とやや不満の比率を差し引いた値を表しており、重要度とは、総合的な満足度を外的基準とした場合の、数量化理論二類の

レンジを基準化した値である（最大のレンジを1.0とした）。「行政による高齢者への支援や助成の現状」の結果を見ると、最も重要な項目としては、「1.老人クラブへの支援や助成」が挙げられており、満足度の値も負となっている。現在、新潟県内の市町村の中で老人クラブへの支援を直接行っているところは、約30%程度であり、必ずしも高い値ではない。次に重要な項目としては、「13.行政による無料バスの運行や交通費の助成」があるが、県内で何らかの形で交通費の助成を行っているところは一割にも満たず、高齢者の活動を支援する意味でも改善が必要とされる。特に豪雪地域においては冬季の活動が制約されるため、アクセス条件の改善が不可欠である。満足度の低い項目としては、「9.高齢者と若者との世代交流事業への支援や助成」「8.高齢者の研修活動への支援や助成」が挙げられている。現在世代交流事業を行っている市町村数は約10程度であり、研修活動への支援に至っては、今回の調査では確認できなかった。これらの項目は、これから高齢者を中心とした地域づくりを考える上でも不可欠な政策である。

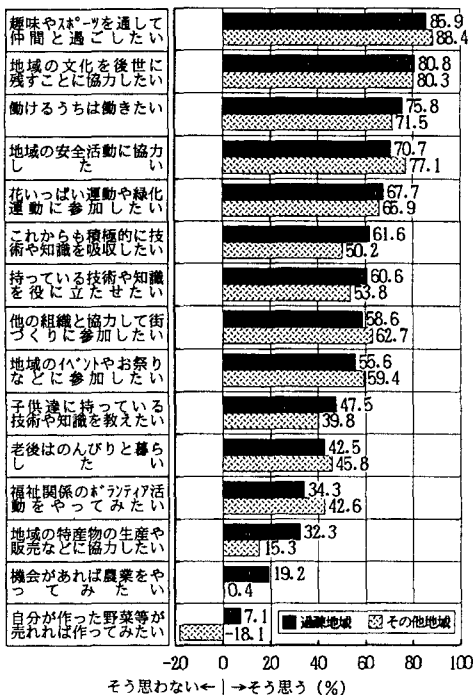
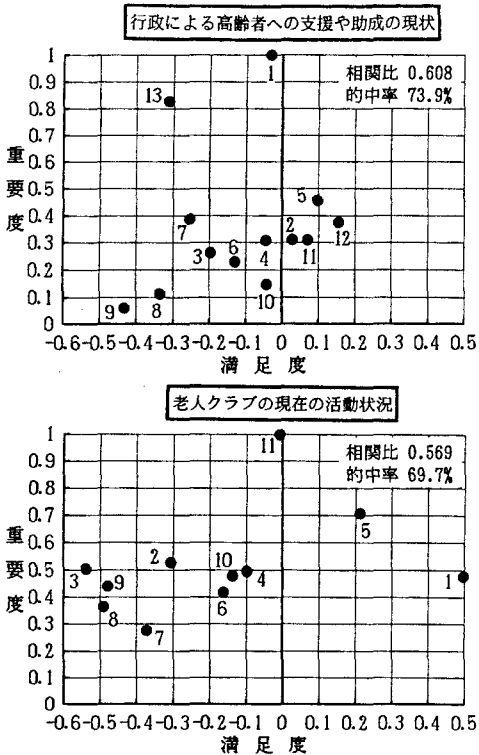
「老人クラブの現在の活動状況」については、最も重要と認識されているのが、「11.老人福祉センターや老人憩いの家」の利用状況である。満足度の低い項目としては、「3.就業機会や人材活用事業の利用状況」「8.高齢者を対象とした研修活動への参加」「9.高齢者と若者との世代交流事業への参加」が挙げられている。これらの項目に対しては、行政の対応の中でも記述したように、市町村の対応が不十分であるため、高齢者自身の活動も不活発になっているものと思われる。なお、これらの分析結果は、地域により異なることが考えられるが、地域ごとの分析結果に関しては講演時に報告する。

3. 高齢者の地域との係わりの課題

前章で記述したように、高齢者が地域の中で活動する上で、施設整備や行政の支援は必ずしも十分なものとは言えないのが現状であるが、高齢者自身は街づくりへの参加意識についてどのように考えているのであ

表－1 高齢者対策のための調査項目

行政による高齢者への支援や助成の現状について	
番号	項目
1	老人クラブ活動への支援や助成
2	各種学習活動の開催や助成（高齢者大学や健康大学等）
3	就業機会や人材活用事業への支援や助成
4	教養講座や趣味のグループ活動への支援や助成
5	ゲートボールや各種スポーツ活動に対する支援や助成
6	高齢者によるボランティア活動の指導や助成
7	高齢者による地域文化継承活動への支援や助成
8	高齢者の研修活動への支援や助成（技能修得等）
9	高齢者と若者との世代交流事業への支援や助成
10	高齢者による街づくり事業への支援や助成（花いっぱい運動等）
11	「老人福祉センター」や「老人憩いの家」の整備状況
12	敬老祝い金等の支給状況
13	行政による無料バスの運行や交通費の助成
老人クラブの現在の活動状況について	
番号	項目
1	クラブ員相互の親睦会の実施状況（旅行会等の実施）
2	各種学習活動への参加（高齢者大学や健康大学等）
3	就業機会や人材活用事業の利用状況の活発さ
4	教養講座や趣味のグループ活動への参加
5	ゲートボールや各種スポーツ活動への参加
6	高齢者によるボランティア活動への参加
7	高齢者による地域文化継承活動への参加
8	高齢者を対象としたの研修活動への参加（技能修得等）
9	高齢者と若者との世代交流事業への参加
10	高齢者による街づくり事業への参加（花いっぱい運動等）
11	「老人福祉センター」や「老人憩いの家」の利用状況



ろうか。これらの課題について整理した結果が図-2である。図に示した質問項目に対して、「1.思わない、2.あまり思わない、3.何とも言えない、4.やや思う、5.そう思う」の5段階の評価結果に対して、「そう思う」と「やや思う」の合計から「思わない」「あまり思わない」の合計を差し引いた値を図示した。従ってその値が大きいくほど、その質問項目に対して積極的な考えであることが分かる。なお、ここでは過疎地域とその他の地域とに分けて表示してある。

両地域においても上位の項目においては差はなく、「趣味やスポーツを通して仲間と過ごしたい」「地域の文化を後世に残すことに協力したい」「地域の安全活動に参加したい」等、地域との係わりに対して積極的な姿勢が伺える。下位に位置している「地域の特産物の生産や販売」「農業への参加」意識は、過疎地域の方がその他の地域に比較して積極性が見られる。

4. おわりに

本研究は、今後の地域計画を考える上で高齢者を積極的に取り込んでいくための問題について検討を行ったものである。高齢者用の施設の利用状況やその他の詳細に関しては、講演時に報告する。